北海商科大学　講義概要（シラバス）

2026年度

科目名	異文化ゼミナール	科目コード	1152	単位数	2
担当者名	見附　陽介	開講セメスター	第2セメスター	開講年次	1年次
授業の方法	講義	到達目標	B	実務経験	無
ナンバリング	BSe202	※DP（ディプロマポリシー）と到達目標の関連性については、カリキュラムマップ参照			

授業のねらい

このゼミナールでは、異文化コミュニケーションに密接に関わる“多文化主義”と“承認”の理論を扱う文献を読み通し、グループ・ディスカッションを通じてその内容のより深い理解を得るという体験を重視する。 大学のゼミナール形式の授業に対する発展的な取り組みを重視し、テキストの読解力に加えて異文化コミュニケーションに関わる理論的な思考力の向上も目指す。A.センプリーニの『多文化主義とは何か』とC.テイラーらの『マルチカルチュラリズム』を対象テキストとして扱い、文化間の交流に関する政治哲学的、人間学的問題である承認、アイデンティティー、権利などについて学ぶ。

到達目標

・社会文化ゼミナールで学んだリーディング・ライティングのスキルをさらに向上させる。
・ゼミナール形式の授業を通じて、グループ・ディスカッションができるようになる。
・レジュメの作成を通じて、テキストの読解と内容解釈の方法を習得する。
・異文化の間に生じる課題について理論的に分析する視点と解決に向けた規範を獲得する。

授業内容

1週目 オリエンテーション：ゼミの進め方と対象テキストについて
2週目 論文を読む①：論点を掴む
3週目 論文を読む②：内容を要約する
4週目 課題レポート作成準備：争点と自分の意見
グループ・ディスカッションの準備：レジュメの書き方／質問の作り方
5週目 『多文化主義とは何か』第一章　第Ⅰ節ー第Ⅳ節
6週目 『多文化主義とは何か』第一章　第Ⅴ節ー第Ⅸ節
7週目 『多文化主義とは何か』第二章　第Ⅰ節ー第Ⅳ節
8週目 『多文化主義とは何か』第五章　第Ⅰ節ー第Ⅱ節／中間レポート課題提示
9週目 中間レポート作成準備（学内Wi-Fi使用予定）／『マルチカルチュラリズム』理論解説
10週目 『マルチカルチュラリズム』「承認をめぐる政治」（１）：第一節
11週目 「承認をめぐる政治」（２）：第二節
12週目 「承認をめぐる政治」（３）：第三節／期末レポート課題提示
13週目 「承認をめぐる政治」（４）：第四節
14週目 「承認をめぐる政治」（５）：第五節
15週目 レポート提出／各自レポート概要発表
16週目 レポートの講評および質問の受け付け（なお、期間中に休講があった場合は補講授業を行う）

準備学修（予習・復習）の具体的な内容及びそれに必要な時間

・対象テキストのうち各回の該当部分を参加者は全員必ず読んで予習をしておくこと（60分程度）。
・参加者はゼミのディスカッションの内容を踏まえてその都度対象テキストを読み返し復習することで、著者の説明・主張の流れをきちんと把握しておくこと（60分程度）。
・担当報告者は自分の担当部分の内容をまとめたレジュメを参加人数分用意し、授業中に配布すること。報告後は該当部分についてグループ・ディスカッションを行うので、報告者以外の参加者は該当部分についてあらかじめ疑問点・質問などをまとめておき、積極的にディスカッションに参加すること。

成績評価の方法・基準

・担当報告(30%)、ディスカッションへの参加度(30%)、レポート課題(40%)の割合で総合的に成績評価を行う。
・出席は基本的にすべての回に出席することを前提とし、4回以上の欠席がある者は評価の対象としない。また自身の担当報告の回を無断欠席したものは失格とする。

履修上の留意点

・授業では、対象テキストの内容だけでなく関連する事象などについて、学内Wi-Fiも自由に使用しつつ、各自積極的に調べておくこと。
・授業で学内Wi-Fiを利用して理解度確認作業（読解クイズ）なども行うので、各自スマホやタブレットなど通信機器を持参すること（ただし、授業中スマホなどを使わない場合は、しまっておくこと）。
・学内Wi-Fi使用の際には、セキュリティ対策として、ガイダンス等で示された指示を順守すること。

課題に対するフィードバックの方法

レポート課題等に関して講評を行い、合わせて質問の受付や授業内容の再確認なども行う。

テキスト

とくになし。
必要なテキストは授業内で用意する。

参考書

C.テイラーほか、佐々木毅ほか訳『マルチカルチュラリズム』岩波書店、1996年。
その他、必要に応じて適宜授業内で紹介する。

更新日付

2026/01/27 10:51